



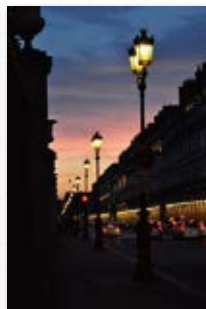
平成29年度京都府地域力再生プロジェクト支援事業 京都地域創造基金事業指定プログラム 後援:公益財団法人 京都市国際交流協会

京都の中のParis1「ヴァラス噴泉」



みやこめっせ正面広場西側
(総重量610kg、全体の高さ約3m)
1988年(昭和63年)京都市・パリ市
市友情盟約締結30周年記念で贈
呈された。パリ街角のシンボルと
して今も愛される噴泉(右の写真は
パリ)。1870年の普仏戦争、水の
配給もままならないパリ市民の困窮
を知った英国の慈善家リチャード・
ウォーレス卿(Richard Wallace)に
より「飲料に適した水を」とパリ市に寄贈された。1872年に最初の噴泉が据え付け
られ、古代ルネサンスの彫像をイメージ、フランスと芸術に親しんだウォーレス氏自
身によるデザイン。噴泉を囲む4体の彫像は、それぞれ純朴、善意、節酒、慈善
を表しています。

京都の中のParis2「パリのガス灯」



京都市役所前広場
(鋳物製、総重量約320kg、高さ約5.7m)
昭和40年(1965年)パリ市より京
都市に寄贈されたアンチックなガ
ス灯。19世紀以来、パリの街路
を照らしていた物で、頭部は草
花模様で豪華な装飾が施されレ
ジュブリック広場にあるガス灯と
同形。上部は円柱。下部は角
柱。パリには1830年代にガス灯
が登場、19世紀中頃の第二帝
政時代には劇場街グランブールヴァールでガス灯が大活躍。パリの繁華街は
パレ・ロワイヤルからグランブールヴァールへ移っていた頃という。



京都市が最初に提携した姉妹都市はパリ・・・
2018年は60年という節目を迎えます。

2018年6月21日(木) 15時

京都・清水寺から「友愛」メッセージを世界に発信する「世
界友愛 100本のトランペット」は1982年にフランスで生まれ
た「音楽の祭日・Fête de la Musique」の一環として世界
120カ国・800都市と同日に開催されます。

音楽の祭日・京都/Paris 2018実行委員会

京都市下京区天満町456-27 高瀬川・四季AIR内

番組小学校

文・池田 進

高瀬川のギャラリーからほど遠くはない五条通に面して本覚寺という浄土宗のお寺があります。そこに西谷淇水(二八四〜一八九一)という方のお墓があって、その墓碑銘に次のようなことが刻まれています。「……先生の建議は当時すぐには取り入れられることはなかったのだが、その後、政府の布令によってどこにも学校が建設された……」



西谷先生の墓碑と碑文(部分)

学校が建った!



西谷先生は京都がまだ所司代・町奉行所の支配だったころから「教学所」をつくることの大切さを説いた建白書を町奉行所へ送っていたのですが、幕末当時の政府部内ではとてもそれに取り合っている余裕などありませんでした。明治元年に新政府が成立したその機に、西谷先生の「小学校」建設とその具体策の建議が新しく着任した長谷信篤京都府知事によってとりあげられ、京都市内に小学校建設が進められたのです。墓の碑文はそのことを言っているのです。

西谷先生は設立された下四番組小学校(後の日彰校)と下三番組小学校(後の明倫校)の校長を引き続き務めたのち退いて、私塾菁々塾で子

供たちを教えて生涯を閉じました。西谷先生の同志には当時長州藩士後参議の廣澤真臣、岡山派の画家森寛斎はじめ、熊谷直行、遠藤茂平など幾人もの人たちがいました。

西谷先生が学校建設を建議した翌月明治元年九月ころから、京都府は早くも住民へ向けて小学校建設のための広報活動を始めていたようです。京都府は町々へ「仕法書」を送って、町中の人たちに討議を促し意見の収集をはかっていた。町中からは目安箱に不満・不安、反対、改善など様々な声が寄せられたようであり

これをうけて府は十月八日に町々の長である人たちを召集して、長谷知事みずから説得に立ちました。

こうして町に帰った役員さんたちの調整が効いたのか、町組のほとんどが期日までに承諾の返書を出したので、府は十一月二十日に再度の会議を招集して学校の建設場所、建設方法と図面の届け出を命じ、十二月六日には小学校建設の指示が下りました。西谷先生の八月の建白から算えてなんと約三か月あまりという速さでした。翌年に入ると建設が始まって明治三年内に六十四校がスタートしました。

このガツ、うちらでつくったんや



市の全体にわたるこのような巨大プロジェクトが明治の初年のきわめて短期間のうちに、いまではとても考えられないほどのはやさでできあがってしまったのはなぜでしょうか。その謎を解く鍵が「町組」とか「町組会所」という言葉の中にあります。「町組」というのは実は平安京末の京都の町に起源があります。「町組会所」というのは町組の会議所でありました。

平安京が崩壊にむかっていたころはまさに戦乱と混乱の時代でありました。漸く経済的にも力をつけてきた町の人たちは我が身を護るために町と町が協力して、その協同体を自衛する必要に迫られていました。戦火と略奪から自分たちの居場所と生活の糧を確保しようとする怨念がそこにはこもっています。こうしてできた町組が江戸末期には一大組織に発達して、住民

自治の生存感覚が意識の底に深く沈殿してきたと同時に、市中の統治のための組織体としても生きてきました。先ほど述べた「町組」は明治二年に再編成された「番組」であります。そしてその町組ごとにつくられた小学校は「番組小学校」であり、番組小学校が番組という行政区画の単位として役場の役を兼帯してきた理由もそこにあります。

ともかくこのような無意識の精神基盤を元に、この町に学校を持つという共通の価値に對して共通の負担と貢献、つまり、貧は貧なりに、富は富なりに、身代におうじた公平の負担を以って学校建設にかかわるのだという共通の感覚を持つことができたところに謎を解く鍵があると思います。

私の小学校と中学校の先輩で、母校の校長を務められたことのある或る方から先ごろお便りをいただきました。その中に私のクラスメイトの〇〇君のことが書かれていました。その部分を無断で引用させていただきます。

……のところに「〇〇自転車店」があります。毎日、夕方になると学校に来て故障の自転車を持って帰られます。そして翌日の朝、修理したのを持ってこられます。修理代の請求を頼むと「何言うたはりますね。私の学校ですやん。よろし、よろし。……」

「私の学校ですやん」ここには、ただそこが自分の卒業した母校だという平たいものではなくて、目の前にいる校長先生をさしおいて、センセよりずっとまえからわしらのもんでつせというニユアンスが無意識に流れているのを感じてしまします。

学校をつくったのは彼ではなくて彼のおじい様の代のことです。たぶん、明治の祖父の世代の人たちが学校の建設を納得した感覚的ダイナミズムがいまだに私たちの世代にも生き続けているのでしょうか。

池田進
京都市生まれ。
京都大学文学部哲学科卒。
関西大学名誉教授。



元・立誠小学校玄関入口付近の受付窓口。
同校が区の役所を兼ねていた頃の名残り。

京の水辺

四条木屋町を南へ下がるにつれて繁華街のにぎわいから一転静かな町が姿を見せます。

四条通りをふりかえり見た時の

人波の多さに驚きつ

高瀬川の川音を聞きながら

木屋町通りをさらに下がつてゆくと

左手に仏光寺公園が見えてきます。

その公園わきの小道を左に曲がつて

まっすぐに行くところ鴨川です。

大きくすんとぬけた空と

広々とした河原に

春の風が気持ちのいい季節です。



文・写真 森下和真

トコロ インタビュー



第11回

にしだ 西田 稔さん

綾小路ギャラリー武オーナー。
同志社大学名誉教授。
豊園小学校出身。
昭和17年7月生まれ。75歳。



▼こちらのギャラリーは？

御幸町六角上ルで生まれてから疎開で少し滋賀にいましたが、物心ついてからはずっと綾小路で育ち豊園小学校、成徳中学校に通いました。

僕は結婚して家を出ましたが、両親はずっとここでした。九十過ぎまで一人で住んでいた母が亡くなったときに、家を手放したらあかんと、家族と相談して、貸しギャラリーならできると4年前に改装しました。

▼端々にセンスを感じますね。

工事は京大工学部建築学科の三村浩史先生からの紹介で、京町家保存のエキスパート堀工務店の堀栄一さん。柱や建具などできるだけ使えるものは使おうと工夫してもらいました。息子が、あれだけは残して欲しいと言ったのが二階の階段です。元の家を象徴するのが階段と考えたからです。移設して残すことになりました。建築デザイナーの吉田玲奈さんは、玄関前のタイル、枠、手すり、トイレなど内装の細かいところにも温かみを感じるつくりにしてくれました。息子が絵を習っていた縁でアトリエ路樹絵主宰の渡辺一雅先生からは、大作や連作の絵をかけられる大きな壁や空間を確保すること、トイレはスタッフ用を別につくることなどアドバイスいただきました。ギャラリーのロゴも渡辺先生が記念に贈ってくださいました。

家族の反対を押し切ったつづつたのが、奥の庭のたばこコーナー。これが意外と評判が良くて、あれがあるから借りることにしたという作家の方もおられるくらいです。



▼市からの助成などは？

耐震工事については助成してもらえましたが、町家保存としては二軒長屋のため片側の家だけではだめというところで助成無しです。長屋の町家の保存も大切だと思うのですが。

▼ご専門はフランス文学と。

フランス古典主義、特にラシーヌが専門です。同志社でフランス語を34年教えて10年前に定年退職しました。高校の頃に世界文学全集を読んだ。フランス文学が肌に合うと思いましたが、フランス宮廷バレエについても教えていました。オペラとバレエはヨーロッパ文化の華なのです。

京大では演劇部で京大西部講堂が主な活動の場でした。余談ですが、うちは富小路の徳正寺の檀家です。

が、それが演劇セクターのようになっていて、多くの演劇人が稽古場として使っていたという話も後で知りました。

二十歳で訓練のためとバレエも習い始めました。ポリシヨイの客員名誉教授、国際コンクールの審査員をなさっていた薄井憲二先生は東京の出身ですが京都で教えておられ、先生にも習いました。そのこともあつて昨年の暮れには薄井先生の貴重なコレクションを紹介する「バレエと日本趣味」展をうちの画廊で開催しました。残念なことに、その最終日に先生は亡くなられました。

▼舞台芸術のDNA？

母方の祖父の野村芳光は浮世絵の野村芳園の婿養子で都踊りの背景を描いていました。もともと和歌山から出て来て看板を描いていたのを風刺画家で京都に滞在していたピゴに見出され、ピゴが芳光をフランスに留学させたいと言いつ出した際に、野村の家では一番弟子を取られたらかなわんと、長男がいたのに娘の婿にして家を継がせることになったようです。芳園の長男の野村芳亭の方は東京に行つて、松竹蒲田撮影所の初代所長になりましたその息子が著名な映画監督野村芳太郎。

3年前にはこのギャラリーで祖父の下絵の展覧会を開くことができました。舞台上で立体的に見える独特の絵です。

▼実家のご商売もデザインに関係しますね。

実家は仏光寺通りの仏亀、今の西田亀です。建築金物材料を扱っていて、加工工場もありました。広くて、仏光寺通り、富小路通り、麩屋町通りのそれぞれに人口がありました。市の方針で町の中にあつた工場がみな追い出されることになり、伏見に移りました。今は南区にあります。

バブルの後、続けるのが難しくなつたときに、ロゴマークやプレートをうちの会社に委託していた京都銀行が、こういう会社は残さなあかと挺入れをしてくれて存続することになりました。昔から糸へんと金へん、いうて、金へんは大きくは儲からないかわりに不景気でも細々と続くようです。



▼子どもの頃の街の様子などは？

荷物を運ぶ馬が行き来して、向かいの奥村金物店の店先にもよく繋がれていました。また、農家の人が牛に牽かせて肥を集めて来て、お礼に作

物を置いていく。家の前の道は土で、馬や牛が通っていたということですが。僕が小学校終わる頃まで、京都は戦前からあまり変わってなかったと思います。

買ひ物は丸が錦ですが、錦まで行かなくても町内には魚屋と乾物屋がありましたし、生野菜はリヤカーや荷車で売りに来てくれました。数軒先の高倉通りに風呂屋がありました。父親とは会社の風呂に行き、母親とは風呂屋。当時、子どもは男湯と女湯を自由に行き来して、五年生まで女湯で母に体を洗ってもらっていました。夏はたらいで行水です。

遊び場所は仏光寺さん。御所にも行きました。寺町には極楽地獄の絵があつて、子どもは地獄絵ばかり見てました。鴨川も疎水も泳いだらあかん言われて、若王子のプールはひとこと一緒によく行きました。親とは琵琶湖や木津川の水泳場です。

◆インタビューを終えて

豊富なバリ在住経験から、京都人とパリ人は人の接し方に共通点があると感じるそうです。個人主義でとつきにくいけど、親しくなると違う、とのこと。現代的でスタイリッシュだけど温かみのある町家ギャラリーでのインタビューの後、いづろ源さんで昔ながらのむし寿司を味わいながら更にお話を伺わせていただきました。

文・堀江典子
絵・安芸早穂子

京都・Paris・シャンソン

新しいシャンソンを新しい言葉に乗せて

現代シャンソンを新しい日本語詩に紡ぎ出す。訳詞家・松峰綾音さんは京都と東京が活動の拠点……。

ハーバード大学で近代日本文学を教えたキャリアからか「ことば」へのこだわりと時代背景を踏まえた訳詞が輝いて心に響きます。この訳詞コンサートツアーは既に10回。2016年からは日本文学珠玉の作品を組み込んだ『新しいシャンソンと朗読の夕べ』にもチャレンジ、好評を博しています。

2018年6月21日音楽の祭日「清水寺・世界友愛100本のトランペット」では「音楽は国境を越える」をテーマにフランス総領事、京都大学総長、ノンフィクション作家、音楽家がパネリストとして登壇する座談会の構成・司会という大役も務めます。

また4月からはフランスと関わりの深い学者やプロデューサーとの対談企画「綾音・達人夜話」を四季AIRから発信します。



2018年

4/7(土) 18:00～「綾音・達人夜話」 ゲスト 名古屋大学名誉教授 山田弘明

4/27(金) 19:00～「巴里野郎ジョイントライブ」 共演 堀内環・夏原幸子

6/21(木) 16:30～「音楽は国境を越える」 座談会・構成・司会 於 清水寺・成就院

7/21(土) 18:00～「綾音・達人夜話」 ゲスト 同志社大学名誉教授 西田稔

9/23(日) 12:30～「採新亭演奏会」 松峰綾音 訳詞コンサートin 東福寺・大慧殿

2019年

6/21(金) 音楽の祭日「松峰綾音 訳詞コンサートin 清水寺・成就院」

夢や希望、喜びを模様 水を織るように歌を織ります

水織ゆみ ハイブリッド・シャンソン歌手

慶応大学で哲学科・美学を専攻しながら、演劇で役者の研鑽を重ねフラメンコを26年、ジャズダンスを38年、コーラスで声楽を40年。

NHKでは、歌番組のディレクターに 番組制作の基礎を叩き込まれ台本構成、訳詞、舞台監督をも一人でこなす。

独学でシャンソンに取り組み、40歳でシャンソン歌手としてデビュー。実にユニークな、ハイブリッド・エンターティナー歌手の誕生である。東京パリ祭には28年間連続出場。近年はオリジナルの作詞や訳詞の評価も高く、日本訳詩家協会の理事にも推薦され就任。

東京、名古屋、奈良、京都でシャンソン教室などを開催。東日本大震災では、いち早くドラ焼き600個を 一人で現地に運び込んだ。

英国エディンバラ日本総領事館20周年コンサート、知床世界遺産記念、洞爺湖サミット記念コンサート、東北支援コンサートなど、全国各地で公演、講演を重ねている。日本シャンソン協会会員。



京都では 若山喜正さんを中心にファンクラブ「京都夢織会」が2000年に結成され京都府立文化芸術会館で、18年間に渡り12回のリサイタルを開催してきた。歌と踊り、あふれるパワー、甘く透き通る声、笑い涙 おおいなる感動と、生きている喜びを味わう舞台、それが水織ゆみの世界。

2021年6/21(月)15時～

音楽の祭日「水織ゆみコンサートin 清水寺・成就院」

京都・Paris・シャンソンについてのお問い合わせ 【E-mail】d06285@nifty.com 【電話】080-3761-3960 (前川)

はなひとたち ～4人展～

日時：3月28日(水)～4月1日(日) 11時～18時まで(最終日は17時)

場所：高瀬川・四季AIR

お問合せ：090-2043-7714 (浅田)

はなひととは花を愛でる人の事です。

関西を中心に活動する4人の作家が春の風に誘われて、京都に集まりました。

桜満開の高瀬川・四季AIRに是非お出かけください。



「見立て」に関する考察展

日本文化の一つの要素として庭園や絵画、文学、和歌、落語などに「見立て」という概念があります。千利休は茶の世界で「見立て」を楽しみました。既製の便箋に「見立て」を付けた事で有名なマルセル・デュシャンは、現代アートに「見立て」の概念を持ちこんだとも言われています。これは、日本的「見立て」と現代アートの「見立て」を展覧会を通じて考察しようという試みです。

4月4日(水)13時～8日(日)18時まで
(木曜以降11時～18時)

高瀬川・四季AIR (京都市下京区西木戸町仏光寺下ル)

「見立て」に関する考察展 主催 京都アートカウンシル

日時：4月4日(水)13時～

8日(日)18時まで

(木曜以降11時～18時)

場所：高瀬川・四季AIR

高瀬川・四季AIR

京都市下京区天満町456-27
四条河原町から南へ徒歩7分
仏光寺公園近く

お問い合わせ
080-3761-3960(前川)

